

商店街のための SDGs 入門



はじめに



近年SDGsという言葉が耳にする機会が増えています。みなさんも、ニュースなどで耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

すでにSDGsに当てはまる活動をされている商店街も多いと思いますが、

- ・実はこれがどういうものなのか。
- ・私たち商店街として生活者としてどのような影響があるのか。
- ・何ができるのか。

といった、私たちにとっての意義や具体的な取り組みについては今ひとつピンときていないことが多いのではないのでしょうか。

今回、東京都商店街振興組合連合会では、SDGsを簡単に理解できる入門編として本書を制作いたしました。

具体的な課題や取り組みを知ることで、SDGsへの理解を深めていきましょう。

SDGsとは

世界中の様々な国で環境問題(気候変動)・貧困・紛争・人権問題・新型コロナウイルスの感染症等、多くの課題に直面しています。このままでは安定してこの世界で暮らし続けることが困難になっていくのではないかと心配される状況になってきました。そんな危機感から生まれたのが「SDGs」です。

SDGs(Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。

簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみならず2030年までに解決していこう」という計画・目標のことです。



SDGsは17のゴールと169のターゲットから構成されています。

17のゴールとは、2030年に達成したいあるべき姿を示しています。

- それらは、
- ①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の課題。
 - ②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済的な課題。
 - ③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境に関する課題。
- といった世界が直面する課題を、社会、経済、環境の3側面から網羅的に示しています。

そして、169のターゲットとは、17のゴールに対する具体的な目標です。ターゲットの数はゴールによって異なり、算用数字やアルファベットで表記されています。算用数字のターゲットは各ゴールの具体的な課題の達成を示し、アルファベットはこれら課題の達成するための手段や措置について示されています。

ここからは、17のゴールとターゲットの一部を紹介します。



ゴール1 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

ターゲット 1.1

ゴール1には7個のターゲットがあります。[1.01~1.05, 1.a, 1.b]

2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。

！日本での課題

「子ども 貧困 事件」で検索をすると、貧しさゆえに起きた悲しい事件がたくさん出てきます。

2018年の数字になりますが、経済協力開発機構(OECD)によると、就労している「ひとり親世帯」の子どもの貧困率は、日本は56%、先進国で最悪です。

また、子どもの相対的貧困率が13.5%で、子どもの約7人に1人が貧困状態にあり、国際的に高い水準にあります。

子どもの貧困は海外のことではありません。

日本の子どもたちが皆、笑顔でいられるように考えていくこともSDGsです。



2 飢餓をゼロに



ゴール2 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

ゴール2には8個のターゲットがあります。[2.01~2.05, 2.a, 2.b, 2.c]

ターゲット 2.1

2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

! 日本での課題

日本では、年間2,531万トンの食品廃棄物等が出されています。このうち、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は600万トン。これは、国民1人あたり、おにぎり1~2個を毎日捨てていることとなります。

これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(2019年で年間約420万トン)の1.4倍に相当します。

もし日本で廃棄される食糧が飢餓に苦しむ人々に行き渡れば…、と考えると私たちが世界の飢餓と無関係ではありません。

大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。



3 全ての人に健康と福祉を



ゴール3 全ての人に健康と福祉を

あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

ゴール3には13個のターゲットがあります。[3.01~3.09, 3.a, 3.b, 3.c, 3.d]

ターゲット 3.8

全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する。

! 日本での課題

日本は世界でもトップクラスの長寿国です。その理由の一つは、しっかりとした医療体制や保険制度により、多くの人々が適切な治療を受けられることだと考えられます。

しかし、今後の日本の少子高齢化のさらなる進行により病院にかかる人が増え、逆に医療費を負担する働き世代が減ることにより、医療保険制度が保てなくなる恐れがあります。

また日本は、健康寿命と平均寿命との差が大きいことが課題として指摘されています。

介護する負担の軽減と高齢者本人の健康な暮らしのため、また、医療費を増大させないためにも、一人ひとりの「健康寿命」を延ばすことが重要になっています。



4 質の高い教育をみんなに



ゴール4 質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ゴール4には10個のターゲットがあります。[4.01~4.07, 4.a, 4.b, 4.c]

ターゲット 4.6

2030年までに、全ての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。

! 日本での課題

日本では義務教育が整備されているからといって問題がない訳ではありません。待機児童の問題などは、幼稚園や保育園の数が足りていないことが原因で起きています。

文部科学省の発表によると、「現在の日本の教育における課題」として挙げられているのが、いじめ・不登校等の生徒への対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、子供の学力及び体力低下への対策、家庭の貧困による教育格差などです。

その他には、少子高齢化による生徒数の減少や教職員の過労問題なども課題として挙げられています。

実は日本の学校教育における課題は山積みなのです。



5 ジェンダー平等を実現しよう



ゴール5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

ゴール5には9個のターゲットがあります。[5.01~5.06, 5.a, 5.b, 5.c]

ターゲット 5.5

政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参加および平等なリーダーシップの機会を確保する。

! 日本での課題

世界経済フォーラムが毎年公表する、社会進出における男女格差を示す「ジェンダーギャップ指数」によると、測定可能な153カ国のうち、日本は120位(2020年)。政治、経済、教育、健康という個々の指標を見ると、すべてにおいて、1年前から順位を落とし、政治分野はワースト10を維持しています。諸外国と比べて、政治、経済活動や意思決定に参加する機会の男女差が大きいと言えます。

指導的立場にいる女性の割合が低いことや、妊娠・出産等に関するハラスメントの防止に向けた取組が十分でないことも課題として指摘されています。



6 安全な水とトイレを世界中に



ゴール6 安全な水とトイレを世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

ゴール6には8個のターゲットがあります。[6.01~6.06, 6.a, 6.b]

ターゲット 6.2

2030年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女子、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。

! 日本での課題

日本では、蛇口をひねれば安全できれいな水が利用でき、トイレを見つけることにも困りません。世界と比べると高い水準ですが、一部の人々が取り残されています。

日本の水道普及率は約98%であり、残り2%の約230万人が水道を利用できない状態です。

また、トイレの普及率(下水道普及率)は約80%です。残りの20%の地域では、くみ取り式のトイレを使用しています。水は処理されてから川に流されるため、感染症のリスクはほとんどありませんが、下水道が普及されていない地域は未だ残されているのです。

今後は水道・下水道それぞれの普及率100%を達成させることが求められています。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



ゴール7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

ゴール7には5個のターゲットがあります。[7.01~7.03, 7.a, 7.b]

ターゲット 7.2

2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

! 日本での課題

日本は世界で4番目に多くエネルギーを消費している国なのですが、エネルギー自給率は11.8%しかなく、他の国と比べるととても低くなっています(2018年)。

また、日本の発電電力量(2019年度)は、再生可能エネルギーが18.1%・原子力が6.2%・化石燃料火力が75.7%で、化石燃料を用いた発電が大多数を占めています。

化石燃料を燃焼させると、大量の二酸化炭素が発生するため、地球温暖化を加速させる要因のひとつと言われています。しかし、エネルギー資源に乏しい日本では、未だに化石燃料に頼った発電を行っているのが現状です。

こうした日本の現状を打破するため、日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指しています。



8 働きがいも経済成長も



ゴール8 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する

ゴール8には12個のターゲットがあります。[8.01~8.10, 8.a, 8.b]

ターゲット 8.5

2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

! 日本での課題

日本は世界的に見ても長時間労働が課題で、短時間労働者を除いた「男性1日あたりの平均労働時間」は世界1位となっています(2014年時点)。

日本人は諸外国の労働者より長く働いていますが、そのぶん労働生産性が他国より高いかというと、必ずしもそういうわけではありません。

2019年度の日本の時間あたり労働生産性は、OECD加盟36ヶ国中21位に相当する46.81ドルで、主要先進7ヶ国中では最下位となっています。

将来的な働き手不足が懸念されている現代日本では、労働者1人あたりの労働生産性を高めることは最重要課題とされています。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



ゴール9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

ゴール9には8個のターゲットがあります。[9.01~9.05, 9.a, 9.b, 9.c]

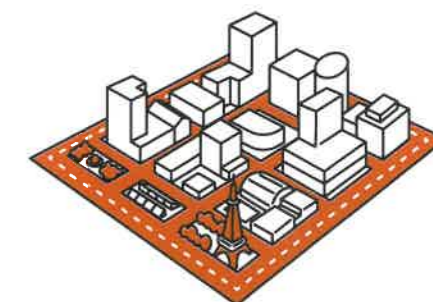
ターゲット 9.1

全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靭(レジリエント)なインフラを開発する。

! 日本での課題

日本は自然災害が多発する国であることから、災害が起きてもち早く元の状態に回復できる強靭な基盤が求められます。大雨や台風によって電車が止まる、高潮の影響で空港が浸水し復旧まで時間がかかるなど、交通機関の貧弱さがあらわになることがあります。

また、日本の社会インフラは、1964年の東京オリンピックの頃に整備された首都高速1号線をはじめ、高度経済成長期に集中的に整備されたことから、今後の老朽化が懸念されています。今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合は加速度的に高くなる見込みであり、このように一斉に老朽化するインフラを戦略的に維持管理・更新することが求められています。



10 人や国の不平等をなくそう



ゴール10 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の格差を是正する

ゴール10には10個のターゲットがあります。[10.01~10.07, 10.a, 10.b, 10.c]

ターゲット 10.1

2030年までに、各国の所得下位40%の所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させる。

！日本での課題

日本の子どもの貧困率は13.9%、およそ7人に1人の子どもが貧困です。最大の特徴は母子世帯などひとり親世帯の貧困率が50.8%ととても高く、これはOECD加盟国の中でも最悪です。ユニセフの「子どもたちのための公平性」でも、日本の所得格差は先進国でワースト8位であるとの報告も公表されました。

また、高齢者世帯の所得格差も拡大しており、65歳以上の高齢者のいる世帯の貧困率は27.0%に達しています。

2020年のコロナ危機では、特に低所得層が打撃を受け、所得格差が拡大する傾向が強まっています。



11 住み続けられるまちづくりを



ゴール11 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

ゴール11には10個のターゲットがあります。[11.01~11.07, 11.a, 11.b, 11.c]

ターゲット 11.2

2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

！日本での課題

日本の多くの地方では、人口が減少し、高齢化が進んでいます。

歳をとって車に乗れなくなると、病院にアクセスできない、スーパーに買い物に行けないといった問題が発生します。また、空き家が増えているのも問題視されています。

また、都市部で最も心配されるのが、災害などによる被害です。大都市で災害が起こってしまうと、公共交通機関が停止し、帰宅困難者が路上にあふれ、道路は深夜まで大渋滞になってしまう恐れがあります。

電気やガス、水道といったインフラ設備は確実に老朽化しており、これらを充実させることも課題となっています。



12 つくる責任 つかう責任



ゴール12 つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

ゴール12には11個のターゲットがあります。[12.01~12.08, 10.a, 10.b, 10.c]

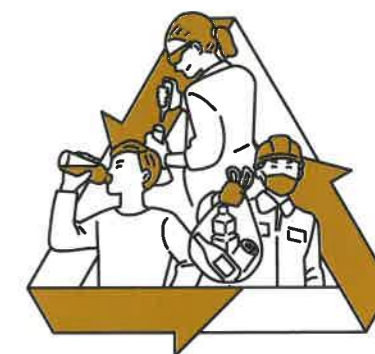
ターゲット 12.5

2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

！日本での課題

日本では、2000年を境にリサイクル率は上昇し続け、2017年（平成29年）には、排出される廃棄物のうち20.2%（平成29年）がリサイクルなど再生利用されています。リサイクルが増えた分、廃棄物の総排出量も年々減少傾向にあります。

しかし、日本のリサイクル率はここ10年、20%で頭打ちの状況が続いています。世界と比べても、ドイツや韓国、オーストリアなどはリサイクル率が50%を超えており、先進国のなかでも日本は下位ランクです。世界的にみると、日本はさらなるリサイクルへの取り組みが必要です。



13 気候変動に具体的な対策を



ゴール13 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

ゴール13には5個のターゲットがあります。[13.01~13.03, 13.a, 13.b]

ターゲット 13.3

気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

！日本での課題

日本の二酸化炭素排出量は世界で5番目に多く、全体の3.2%を占めています（2018年データ）。

二酸化炭素は地球温暖化を進める温室効果ガスの一つであり、近年、大気中の二酸化炭素濃度が急激に増加しています。

世界で5番目に多く二酸化炭素を排出している日本が、気候変動を引き起こす地球温暖化に与えている影響は無視できるとは言えません。



14

海の豊かさを
守ろう

ゴール14 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、
持続可能な形で利用する

ターゲット14.1

ゴール14には10個のターゲットがあります。[14.01~14.07, 14.a, 14.b, 14.c]

2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

! 日本での課題

海洋ごみの半分以上を占めるプラスチックごみは、世界に合計1億5,000万トン以上の量が存在しているといわれ、毎年約800万トン（ジャンボジェット機にして5万機相当）に及ぶ量が新たに流れ出ていると推定されています。

日本の1人当たりの使い捨てプラスチック廃棄量は、アメリカに次いで世界で2番目です（国連環境計画（UNEP）調査）。

法律（容器リサイクル法）が改正され、2020年7月からレジ袋の有料化が始まりましたが、スーパーでは厳重にラップされた商品が売られていたりするなど、日常を思い返すだけでも、日本がプラスチックに溢れた国であることがわかります。



15

陸の豊かさも
守ろう

ゴール15 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、
森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止
および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

ターゲット15.2

ゴール15には12個のターゲットがあります。[15.01~15.09, 15.a, 15.b, 15.c]

2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。

! 日本での課題

日本では国土の66%を森林が占めています。そして、そのうち約40%が人工林と言われています。

人工林のスギやヒノキは、きちんと管理をすることにより、根がしっかり張って立派な木に成長するのですが、林業の衰退により放置されていることが問題になっています。原因は、市場の失敗により木材の価格に森林の価値（環境機能）が相応していなかったことと、もうひとつは海外からの格安木材の輸入の増加です。

手入れがない森林は十分な量の水分を貯える事ができず土砂災害を起こすこともあります。



16

平和と公正を
すべての人に

ゴール16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、
すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆる
レベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

ターゲット16.2

ゴール16には12個のターゲットがあります。[16.01~16.10, 16.a, 16.b]

子供に対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。

! 日本での課題

交戦権を放棄し、国内の紛争も少ない日本ですが、一方で虐待が増加しています。

警察庁の犯罪情勢統計によると、児童虐待の疑いで日本全国の警察が児童相談所に通告した18歳未満の子どもは10万6,960人、前年比8.9%増となりました（2020年度）。通告の内訳は心理的虐待、身体的虐待、ネグレクト、性的虐待の順に多くなっています。摘発件数は2,131件と過去最多になっています。

児童虐待への認識度が高くなったことで、児童相談所や福祉事務所などに「虐待かもしれない」との通告や相談は増加しています。被害者を減らすために社会全体で見守ることが大切ですが、他人事にしないことが大切です。



17

パートナーシップで
目標を達成しよう

ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

ターゲット17.1

ゴール17には19個のターゲットがあります。[17.01~17.19]

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

! 日本での課題

SDGsのゴールについては、国や自治体だけが取り組んでいても決して達成することができません。一人ひとりがSDGsについて理解し、行動に移す必要があります。

日本でも昨今色々なところでSDGsを耳にする機会が増え認知度はあがっていますが、実際に行動しているかという、「既に取り組んでいる」という回答は12.9%となっており、「SDGs」という言葉を知っていても行動に移せている人は少ない、ということが課題です。



17のゴールと169のターゲットをわかりやすくまとめた要約版です。

SDGs169ターゲットアイコン日本版制作委員会制作
「169ターゲットのアイコンと日本版コピー」から引用

1 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困を終わらせる

- 1.01 1日150円以下で生活する人をゼロにしよう
- 1.02 この、どんな貧困も、半分に減らそう
- 1.03 貧困や弱い立場にある人を守る仕組みをもっとつくりよう
- 1.04 誰もがお金を稼ぐために必要なモノや知識に手が届くように
- 1.05 社会的弱者が被る自然災害の被害や経済的・社会的打撃を減らそう
- 1.a 開発途上国の貧困に、十分な知恵や人材のサポートを
- 1.b 適正な政策枠組みをつくり、貧困を真に解決する投資を増やそう

2 飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料の安定確保と栄養状態の改善を実現し、持続可能な農業を促進する

- 2.01 誰もが毎日、安全で栄養のあるものを食べられる社会に
- 2.02 特に、幼児・女子・母親・高齢者の栄養不足を解消しよう
- 2.03 小規模食料生産者を支援して、生産性と所得を倍増させよう
- 2.04 世界中の農業を、何があっても続けられるものに変えていこう
- 2.05 遺伝子の多様性を維持し、未来の食料生産を守ろう
- 2.a 開発途上国の農業生産能力を高めるための投資を拡大しよう
- 2.b 農作物への輸出制限や補助金をなくし、公平な貿易を実現しよう
- 2.c 暮らしを安定させるために、食品価格の急激な変動をおさえよう

3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確実にし、福祉を推進する

- 3.01 妊産婦の死亡率を下げよう
- 3.02 新生児や5歳未満児の死を、もっと防ごう
- 3.03 多くの感染症を根絶し、新たな感染症を防止しよう
- 3.04 正しい生活習慣を促し、早すぎる死亡を食い止めよう
- 3.05 有害な薬物やアルコールの過剰摂取から、みんなを守ろう
- 3.06 交通事故による死傷者を、いまの半分に
- 3.07 すべての国と地域で、性や出産に関わる教育とサービスの充実を
- 3.08 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成しよう
- 3.09 環境汚染による死亡や病気を、大幅に減らそう
- 3.a すべての人をたばこの害から守る約束を、確実に実行しよう
- 3.b 開発途上国に必要な、ワクチンや医薬品の研究開発を支援しよう
- 3.c 開発途上国の保健財政や保健人材を充実させよう
- 3.d 全世界で健康リスクに早く気づき、改善できるようにしよう

4 質の高い教育をみんなに

すべての人々に、だれもが受けられる公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- 4.01 すべてのこどもに、無償で質の高い初等・中等教育を
- 4.02 すべての未就学児に、十分な就学前教育を
- 4.03 すべての人に、手頃で質の高い高等教育を
- 4.04 経済的な自立のために、十分な職業スキルをみんなに
- 4.05 どんな人でも平等に、教育や職業訓練を受けられるようにしよう
- 4.06 みんなが、読み・書き・計算できる世界へ
- 4.07 SDGs達成のために、必要な知識とスキルをみんなに
- 4.a 誰もが安心して利用できる教育施設を
- 4.b 開発途上国の生徒が高等教育を受けるための奨学金をもっと
- 4.c 国際協力で、開発途上国に先生を増やそう

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性・少女のエンパワーメントを行う

- 5.01 全世界の、あらゆる形の女性差別に終止符を
- 5.02 女性に対する暴力とあらゆる形の搾取を根絶しよう
- 5.03 女性に対する理不尽で有害なしきたりをなくそう
- 5.04 家事や育児を労働とみなし、家族で、社会全体で分担しよう
- 5.05 あらゆる意思決定に、男女が平等に参加できる社会へ

- 5.06 性の自己決定権を、すべての男女に
- 5.a 女性にも、経済上の平等な権利を
- 5.b ICTを活用して、女性がもっと活躍できる社会に
- 5.c ジェンダー平等を促進する政策や法律を導入しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

すべての人々が水と衛生施設を利用できるようにし、持続可能な水・衛生管理を確実にする

- 6.01 すべての人に安全で手頃な飲み水を
- 6.02 世界中で、屋外排泄をゼロに
- 6.03 汚染を減らし、再利用を増やし、水質を改善しよう
- 6.04 安定した水の供給を確保し、水不足で悩む人を減らそう
- 6.05 水をめぐる紛争をなくし、仲良く使おう
- 6.06 水に関わるすべての生態系を保護し、回復させよう
- 6.a 水とトイレに関する開発途上国への支援を拡大しよう
- 6.b 地域の水を、地域で守れるようにしよう

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々が、手頃な価格で信頼性の高い持続可能で現代的なエネルギーを利用できるようにする

- 7.01 手頃で品質の高い、電気・熱・ガスをみんなに
- 7.02 再生可能エネルギーの、世界的な使用率をあげよう
- 7.03 全世界で、エネルギー効率の改善率を2倍にしよう
- 7.a クリーンエネルギーに関する研究・利用・投資を促進しよう
- 7.b 開発途上国のすべての人に、エネルギーを提供できるようにしよう

8 働きがいも経済成長も

すべての人々にとって、持続的でだれも排除しない持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を促進する

- 8.01 各国の経済成長率をキープしよう
- 8.02 多様な働き方や技術革新を通じて、経済生産性を向上させよう
- 8.03 新たなビジネスや働き方を、支援する政策を推進しよう
- 8.04 消費と生産の効率を上げ、経済成長による環境破壊をなくそう
- 8.05 すべての人に、働く喜びと正当な対価を
- 8.06 若者の雇用・教育・職業訓練を推進しよう
- 8.07 この世界から強制労働・人身売買・児童労働をなくそう
- 8.08 特に弱い立場の移住労働者に、安全・安心な労働環境を
- 8.09 雇用創出など、地域の未来につながる観光業を推進しよう
- 8.10 銀行取引・保険・金融サービスを、誰もが利用できる社会に
- 8.a 開発途上国に対する「貿易のための援助」を拡大しよう
- 8.b 全世界で、若者が働きやすい仕組みをつくりよう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

レジリエントなインフラを構築し、だれもが参画できる持続可能な産業化を促進し、イノベーションを推進する

- 9.01 経済発展と豊かな生活を支える、社会インフラを整備しよう
- 9.02 誰でも参加でき、その恩恵を受けられる産業をつくりよう
- 9.03 小さな企業にも、金融サービスや市場とのつながりを
- 9.04 環境に配慮した技術で、インフラや産業を改善しよう
- 9.05 技術革新のために、研究者も研究開発費も増やそう
- 9.a 特に支援の届きにくい国へ、インフラ開発の支援を
- 9.b 開発途上国でも価値ある商品をつみだすための支援を
- 9.c 世界中の、すべての人が、インターネットを使えるようにしよう

10 人や国の不平等をなくそう

国内および各国間の不平等を減らす

- 10.01 それぞれの国で、国内の所得格差をなくそう
- 10.02 すべての国で、すべての人に、政治・経済・社会に参画する力を
- 10.03 差別的な法律・政策・慣行をなくし、機会均等を実現しよう

- 10.04 さらなる平等を実現する、財政・賃金・社会保障政策を
- 10.05 お金のズルを、世界中で厳しく取り締まろう
- 10.06 国際的な金融・経済政策に、もっと開発途上国の意見を
- 10.07 移民や難民を、国と国が連携して支えよう
- 10.a 開発途上国に優しい貿易を
- 10.b 支援を必要とする国々に、積極的な開発援助と資金を
- 10.c 移民の送金コストを3%未満に引き下げよう

11 住み続けられるまちづくりを

都市や人間の居住地をだれも排除せず安全かつレジリエントで持続可能にする

- 11.01 スラムを減らし、安全で快適な家と暮らしをすべての人に
- 11.02 誰もがどこでも行けるように、安全で手頃な公共交通機関を
- 11.03 あらゆる住人とその未来を見据えた、計画的な都市開発を
- 11.04 文化遺産や自然遺産をみんなで守り、後世に残そう
- 11.05 自然災害による人や経済の損失を、できるだけ小さく
- 11.06 都市がもたらす環境への悪影響を最小限にしよう
- 11.07 すべての人に、安心して利用できる緑地や公共スペースを
- 11.a 国と地域が連携して、都市・郊外・農村のつながりを強化しよう
- 11.b あらゆるレベルで、総合的な災害リスク管理を実施しよう
- 11.c 後発開発途上国が、地元の資材で建物をつくるための支援を

12 つくる責任つかう責任

持続可能な消費・生産形態を確実にする

- 12.01 「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み」を実行しよう
- 12.02 限りある天然資源を、できるだけ使わずに済むようにしよう
- 12.03 一人あたりの食品廃棄を半分に減らそう
- 12.04 化学物質や有害廃棄物の放出を大幅に減らそう
- 12.05 廃棄物の発生を、3Rで大幅に減らそう
- 12.06 大企業は率先して、サステナブルな取り組みと発信を
- 12.07 まずは国から、みんなのお手本となる買い物の仕方を
- 12.08 持続可能なライフスタイルがどんなものか、みんなで理解しよう
- 12.a これらの取り組みを開発途上国が実践できるように支援しよう
- 12.b 観光業の地域への貢献度を、見える化する手法を開発しよう
- 12.c 無駄な消費につながる、非効率な補助金はなくしていこう

13 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を実施する

- 13.01 自然災害に対する対応力と回復力を高めよう
- 13.02 気候変動対策を、国の政策や計画に落とし込もう
- 13.03 気候変動に対する、正しい知識と対応能力をみんなに
- 13.a できるだけ早く「緑の気候基金」の本格的な運用を
- 13.b 気候変動対策で、誰も置き去りにしない仕組みを

14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために、海洋や海洋資源を保全し持続可能な形で利用する

- 14.01 海へ流れるゴミを減らし、これ以上の海洋汚染を防ごう
- 14.02 海の生態系を保護し、自然の回復力を取り戻そう
- 14.03 CO2を減らし、海の酸化を食い止めよう
- 14.04 乱獲をやめて、漁業の未来を守ろう
- 14.05 海の生物を育む、沿岸部を守ろう
- 14.06 乱獲につながる補助金を廃止しよう
- 14.07 海とともに生きる小さな島や国の未来を守ろう
- 14.a 海の豊かさ、それを守る技術を、世界でシェアしよう
- 14.b 小規模な漁師の市場への参入をサポートしよう
- 14.c 国際法で海洋資源を守りながら、海を利用しよう

15 陸の豊かさを守ろう

陸の生態系を保護・回復するとともに持続可能な利用を推進し、持続可能な森林管理を行い、砂漠化を食い止め、土地劣化を阻止・回復し、生物多様性の損失を止める

- 15.01 森や野原、川や湖の生態系を保全し、回復させよう

- 15.02 森林の劣化と減少を止め、豊かな森を未来に
- 15.03 砂漠化を食い止め、劣化した土地を回復させよう
- 15.04 めぐみゆたかな山の生態系を守ろう
- 15.05 多様な生物とその住処を保護し、絶滅の危機から救おう
- 15.06 生物の遺伝子がもたらす利益を、公平に分け合おう
- 15.07 密猟や違法取引を、そろそろ撲滅しよう
- 15.08 外来種の侵入を防ぎ、地域の生態系を守ろう
- 15.09 生物多様性と豊かな生態系を維持し、私たちの暮らしに役立てよう
- 15.a 生物多様性と生態系を守るための資金を、もっと調達しよう
- 15.b 開発途上国の森林を守るために、十分なインセンティブを
- 15.c 密猟や違法取引に手を染めずに生活できるようにサポートしよう

16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和でだれをも受け入れる社会を促進し、すべての人々が司法を利用できるようにし、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任がありだれも排除しないしくみを構築する

- 16.01 地球上からあらゆる暴力と、暴力による死をなくそう
- 16.02 こどもに対する暴力・虐待・搾取・人身売買・拷問をなくそう
- 16.03 すべての人が法によって平等に守られる社会に
- 16.04 お金や武器の違法取引を減らし、犯罪集団を駆逐しよう
- 16.05 汚職や賄賂を大幅に減らそう
- 16.06 正しく機能し、正しい情報を発信する公共機関へ
- 16.07 誰もが意思決定に参加できる社会へ
- 16.08 開発途上国が、もっと意見を言える世界へ
- 16.09 すべての人に、身分証明書を
- 16.10 一定のルールのもとで、誰もが必要な情報にアクセスできるように
- 16.a 世界中が協力して、暴力・テロ・犯罪に立ち向かおう
- 16.b 差別のない世界を、そのための法律や政策を

17 パートナーシップで目標を達成しよう

実施手段を強化し、「持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップ」を活性化する

- 17.01 開発途上国を支援し、すべての国の財政力を上げよう
- 17.02 先進国はODAに関する公約を実施しよう
- 17.03 開発途上国を支援するための資金源をもっと増やそう
- 17.04 開発途上国が借金を返せるように支援しよう
- 17.05 後発開発途上国にお金が集まるしくみをつくりよう
- 17.06 科学技術やその知識を、抱え込まずに共有しよう
- 17.07 開発途上国に、環境破壊せずに発展できる技術を
- 17.08 ICTを活用して、後発開発途上国の科学技術を強化しよう
- 17.09 SDGs達成のために、効果的な支援を開発途上国に
- 17.10 WTOのもとで、公平で開かれた貿易体制を
- 17.11 開発途上国による輸出を大幅に増やそう
- 17.12 後発開発途上国による輸出に、優遇措置を設けよう
- 17.13 すべての国が協力して、世界経済を安定させよう
- 17.14 SDGs達成のために、一貫性のある政策を
- 17.15 SDGs達成のために、国ごとのやり方を尊重しよう
- 17.16 多種多様なパートナーシップで、SDGsを推進しよう
- 17.17 その際、最も効果的なパートナーシップをみつけ、推進しよう
- 17.18 開発途上国の状況をデータで把握できるように支援しよう
- 17.19 人類の進歩を測定できる、GDP以外の尺度を開発しよう

こんなこともSDGs

持続可能な開発目標SDGsは世界的な壮大な目標で、日本にも様々な課題があることがわかりました。

世界中、日本中が力を合わせなければ解決できない問題ばかり……とため息がでてしまいそうな話ですが、ターゲットを国や地域レベルに置き換えてローカル化することで、個人のやるべきことがわかりやすくなります。

幸運なことに、私たちが日常生活ですごく簡単に取り入れられる行動もあるので。または、既に取り組んでいることもあるでしょう。

ここでは、世界を変えるためにあなたができること、または既に行っているかもしれないことの一部をご紹介します。

No.	例えばこんなこと……	関係する SDGs
1	マイバックの利用を促進している	3 全ての人に健康と福祉を 7 持続可能なエネルギー 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
2	使い捨ての箸をなるべく利用しない	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 15 陸の豊かさも守ろう
3	商店街で子ども食堂をやっている	1 貧困をなくそう 2 健康と福祉 4 質の高い教育をみんなに 17 パートナリシップで目標を達成しよう
4	仕入れの食材は近所であるべく地元の食材を利用している。	7 持続可能なエネルギー 12 つくる責任
5	街路灯の照明はLEDに切り替えた	7 持続可能なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動に具体的な対策を
6	地域のパトロールを行なっている	4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な都市とコミュニティ 16 平和と正義
7	太陽光発電の取り入れを検討中	7 持続可能なエネルギー 13 気候変動に具体的な対策を
8	電力自由化で低炭素の会社を採用した	7 持続可能なエネルギー 9 産業と雇用創出 13 気候変動に具体的な対策を
9	植栽の水撒きは雨水を使っている。	6 安全な水とトイレを世界中に 15 陸の豊かさも守ろう
10	使っていない部屋の照明、空調はこまめに切っている。	11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動に具体的な対策を
11	その日食べる分のものは安売りにになっているものを購入している。	2 健康と福祉
12	商店街でクリーンデーを実施。皆でゴミ拾いをしている。	11 持続可能な都市とコミュニティ 16 平和と正義 17 パートナリシップで目標を達成しよう
13	夏祭り、ハロウィン、様々なイベントを実施している。	11 持続可能な都市とコミュニティ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

No.	例えばこんなこと……	関係する SDGs
14	節水のために節水ノズルに変更した。	6 安全な水とトイレを世界中に
15	配達はなるべく自転車ですしている。	7 持続可能なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動に具体的な対策を
16	通勤、通学のための駐輪場を新たに設置した。	7 持続可能なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動に具体的な対策を
17	ゴミ分別は徹底している。	11 持続可能な都市とコミュニティ 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を
18	プラスチックゴミを減らすよう、量り売りを始めた。	7 持続可能なエネルギー 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう
19	エコカーに買い換えた。	7 持続可能なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を
20	日差しを遮る遮光ガラス、ガラス変更できないところは遮光カーテンに変更した。	7 持続可能なエネルギー 13 気候変動に具体的な対策を
21	夏は緑のカーテンを設置している。	7 持続可能なエネルギー 13 気候変動に具体的な対策を
22	商店街で街路樹の管理をしている。	15 陸の豊かさも守ろう
23	観光客のために多言語メニューや看板を設置した。	3 全てのの人に健康と福祉を 10 人や国々の平等
24	キャッシュレス決済のための端末を準備した。	9 産業と雇用創出 13 気候変動に具体的な対策を
25	男性の育休推進をしている。	3 全てのの人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等 10 人や国々の平等
26	女性部が主導して行なっているイベントがある。	3 全てのの人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等 10 人や国々の平等
27	障害者の職場受け入れをしている。	3 全てのの人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等 9 産業と雇用創出 10 人や国々の平等
28	外国人留学生をアルバイトで雇っている。	3 全てのの人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等 9 産業と雇用創出 10 人や国々の平等
29	学校の運動会に格安でお弁当を提供している。	1 貧困をなくそう 2 健康と福祉 3 全てのの人に健康と福祉を



商店街のための SDGs 入門 2022 年 2 月発行 東京都商店街振興組合連合会

参考

- 厚生労働省 国民生活基礎調査 2018 年
- 農林水産省及び環境省 「平成 30 年度推計」
- 外務省 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する自発的國家レビュー (国連ハイレベル政治フォーラム報告書) 2017 年
- 文部科学省 現在の教育に関する主な課題
- 文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 2021
- 外務省 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する自発的國家レビュー (国連ハイレベル政治フォーラム報告書) 2017 年
- 世界経済フォーラム ジェンダー・ギャップ指数 2020 年
- 日本下水道協会 「都道府県別の下水処理人口普及率」, 「下水道について「水循環と下水道」」
- 厚生労働省 「水道普及率の推移 (令和元年度)」 2019 年)
- 経済産業省: 日本のエネルギー 2020
- 資源エネルギー庁 | 令和元年度 (2019 年度) のエネルギー需給の概要)
- OECD: @2021 働き方改革ラボ
- 公益財団法人 日本生産性本部 / 労働生産性の国際比較 2019
- 国土交通省 インフラメンテナンス情報
- 厚生労働省 国民生活基礎調査 2019 年
- 厚生労働省 「平成 28 年 国民基礎調査 / 貧困率の状況」
- 環境省大臣環境廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室 「日本の廃棄物処理の歴史と現状」
- JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター データで見る温室効果ガス排出量 (世界)
- SINGLE-USE PLASTICS 2014 年
- 厚生労働省 「児童虐待相談対応件数の推移」
- 朝日新聞社実施調査 第 7 回 2020 年 12 月
- SDGs169 ターゲットアイコン日本版制作委員会制作 「169 ターゲットのアイコンと日本版コピー」